

初めは調子良かったが、しばらくやっていると、左足がつりかけて、急に、おぼれそうになった。

「危ない」と思い、体を立てたら、足が底に届いたので、ほっとした。

まわりを見まわしたら、はるか上の宿屋の窓から、お手伝いさんの女の人に見られてた。

「おい、大丈夫か、もう、めしやで。」と先生が声をかけた。

それで、少し、つった足に注意しながら、先生のいるプールの端まで行った。

上がろうとして、上の宿屋の窓を見たら、まだ、その女、こっちを見ている。逆光で顔がはっきりわからんが、若い子だ。

「見るな！」と言わんばかりに、にらんだが、効き目ない。

どうも、窓ぎわで仕事しながら、外の景色を見ているようだ。

すぐに、バスタオルをつかんで、腰に巻いて、もう一度、窓を見たら、やっぱり、こっちを見ている。

女なのか彼女なのかどっちや